

# 引きこもり経験者 「希望持ち続けて」 講演会で当時の心境語る



自身の引きこもり経験について話す石崎さん（右奥）

## 長野

不登校やいじめ、引きこもりの情報を扱う新聞「Fonte（フォンテ）」を発行するNPO法人「全国不登校新聞社」（東京）などは31日、長野市障害者福祉センターで講演会を開いた。新聞創刊15周年に合わせ全国10カ所で開催。引きこもり経験者の石崎森人さん（30）は東京都三鷹市が当時の心境を語った。

石崎さんは大学卒業後に会社に就職したものの間もなく退職。2年半ほど社会参加できずに自宅中心の生活を送った。現在は造園関係の会社でウェブサイト製作などの仕事をする一方、フォンテの編集にも携わり、自身の体験を手に記して連載している。

石崎さんは当時について

「引きこもっている時だけが自分自身でいられて安心できた」とする一方「生きる意味

も全く分からなくなっていた」と振り返った。それでも「大丈夫。なんとかなる」と希望を持つことで、社会復帰を果たした。希望を持つこととして「他人と比べても自分の得にはならない。まずは1歩、1歩」少しずつ変わっていくことが大事」と話した。

県内外の約90人が参加。講演会後には交流会も開かれ